



JA3AA 島さん を偲んで

JA3USA 島本正敬

2012年9月17日、XPO記念コンテストが例年のように開催されました。ご存知のようにこれは大阪万博の特別記念局JA3XPOを記念して万博が終了した9月15日前後に行われています。以前、JA3XPOの関係者としてこのコンテストに出たら？と島さんに言われたこともありましたが、これまで参加したことはありませんでした。その島さんも今年のこのXPO記念コンテストにはおられません。その代わりに私が初参加しました。それというのも、JA3XPOが島さんと私が出会うきっかけだったからです。

DXニュースを貰うため、毎週W6の局と21MHzでスケジュールを組んでいました。1970年1月か2月のそんなスケジュールQSOのことです。いつものようにニュースの伝達が終わろうとした時、大阪万国博に出展するサンフランシスコ市館がアマチュア無線局に場所を提供したいと言っているという話が飛び出しました。それに驚き、その話に間違いがないか再確認するためサンフランシスコ市とコンタクトをお願いすると、やはり間違いがないという返事が返ってきました。早速このことをJARLの関西支部に連絡したところ、姉妹都市として万博のサンフランシスコ館の準備を手伝っていた大阪市へ、JARLから確認連絡が行われました。最初は、そんな話は聞いていないとの回答でしたが、大阪市からサンフランシスコ市に問い合わせられたところ、事実と判明。JARLが色めき立ちました。それ以前に、JARLは大阪万博でアマチュア無線局を開設しようと奔走されたのに結局実現しないという状況だったそうですから、その時の喜びは容易に想像することができるでしょう。

島さんが大阪万博の特別記念局のリーダーとなられた過程は存じませんが、正式にサンフランシスコ市と確認作業が行われてから非常に短期間で準備が始まりました。そこでこの話を持ち込んだ私と島さんがJARL関西支部でお会いすることになったのが、島さんと私の最初の出会いでした。

島さんは当時30代後半でしたが、それより歳が半分くらい（20歳）の若僧の私に笑顔で穏やかに話され、初対面と言うのに気軽にいろいろなお話ができたという記憶です。島さんの穏やかな対応、また島さんという方の予備知識もなしでお会いしたからでしょう、島さんが亡くなられて多くの方が「雲の上の人...」というような表現をされているのを見聞きして大変驚き、私の島さんに対する接し方を考える時、何か奇妙な感覚にとらわれました。

JA3XPOの準備期間は一カ月程度しかありませんでした。そして無線局の検査は確か大阪万博開場の前日か数日前だったと記憶しています。そんな短期間に、無線設備やタワーを含むアンテナの手配と設置、無線局周辺のディスプレイ、免許や無線局管理者の選考や依頼、関係者が万博会場に入出入りするのためのバスの準備まで、島さんが駆けずり回って3月15日の開幕に間に合わされたのでしょう。

万博がスタートしてからの日々についての記憶は余り定かではありません。それは単調な毎日であったためということではなく、余りにもいろいろな多くのことが毎日のように起こっていたからでしょう。

万博期間のあるときから、サンフランシスコ館のホステスであった現在の家内と付き合い始めていました。万博が終了し、大学を終えるために米国に戻って行った彼女と万博終了して1年半の後に結婚しましたが、その時、島さんが「やっとJA3XPOが終わった」と仰ったことを今も忘れません。万博の6カ月間を経て、JA3XPOのメンバーにとっては家族のような感覚が育ったからに違いありません。それは、島さんのリーダーシップとハムに対する強い思いと大きく関係しているからだと感じます。JA3XPOのメンバーの何人かは既に他界されました。島さんも亡くなり、日本のハムの一時代の終焉を感じるのは私だけでしょうか。

Asia Pacific DX Convention

November 2 - 4, 2012

Osaka, Japan

<http://apdxc.org>

APDXC 2012

11月2日-4日
大阪国際交流センター

<http://apdxc.org>



APDXC Welcome party



DX dinner



"Enjoy Japan tour" is one of our programs
Hand-made green tea: JA, DU, 4J, UA3 and ZL round table



A lot of presentations (photo 4J5T)



Icom factory tour

Q&A session with Icom CEO and engineers at Icom HQ

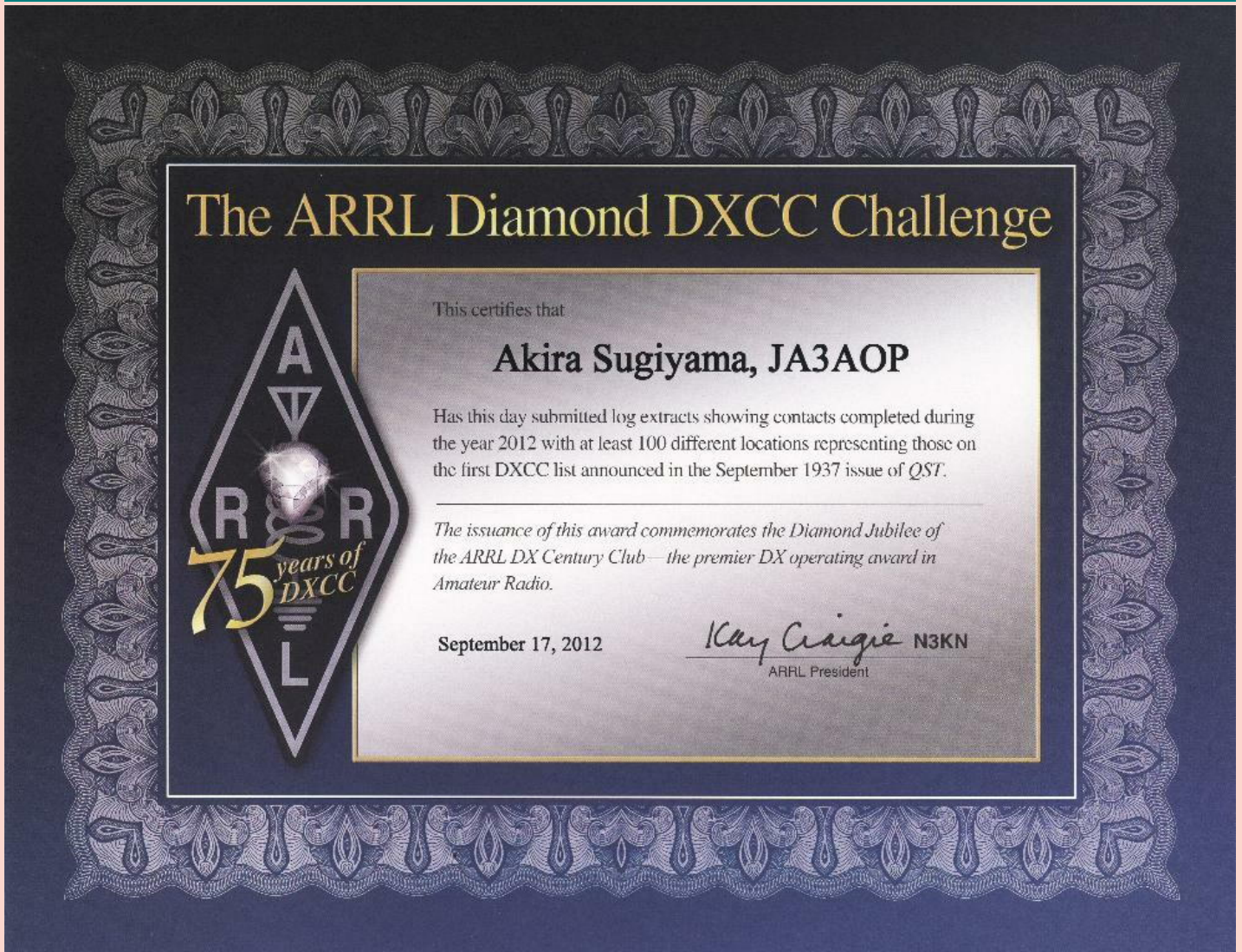


Tea ceremony

- Meet hams from all over the world
- All programs are in English
- Enjoy Welcome party and DX dinner
- A fun local sightseeing tour by chartered bus
- Join Icom factory tour to see how radios are made
- Meet with Icom engineers at a Q&A session
- Check our web site for more details

Diamond DXCC Award

JA3AOP 杉山 暁



今年はDXCC Award が始まってから75周年になります。これを記念して本年中に1937年当時の100エンティティーとQSOし、申請のあった人にDiamond DXCC Award が与えられます。

<http://www.arrl.org/diamond-dxcc>

私も1937年生まれ、75周年の記念にAward を頂けないかチェックしてみました。HamLogに納めてある交信記録から、2012年1月1日以後のQSOを各エンティティーでソートし、ARRLのHPのDXCC > DDXCC コーナーにあるエンティティー チェックのExcell に埋め

込んでいきました。作業の途中でもSaveしておけばARRLのHPで保存してくれます。後日、作業を再開したときには続きの作業をすることができます。

自分なりに調べたところ、129エンティティーありましたので、Log提出をクリックして申請しました。翌日には条件に適さないIQSOが8件あり121のエンティティーでDDXCC Awardを受け付けた旨メールがありました。1週間あまりで賞状が届きました。

すでに、賞をもらった後も、自分の集計表にQSOを追加して行けば記録の更新ができます。最初の申請時に \$ 13(USA), \$14(DX)が

送料込みで必要ですが以後のエンドースメントは無料です。ステッカーは125,150,175,200,225.に最終時点 (Feb. 2013)に送付されます。

先日のペディションのNH8Sは1937年のどのエンティティーにも属さないとか、旧満州に相当する現中国局のリストとか、詳細な情報が提供され、更新されています。

現在のDiamond DXCC standings もWebに掲載されています。

Diamond DXCC Challenge

2012 is the 75th anniversary of the ARRL's DXCC Award—the world's preeminent DXing award continues to be DXCC, so reaching the "Diamond milestone" is an event that we all want to celebrate.

The ARRL Diamond DXCC Challenge

